

V 地域別構想

1 地域の設定

(1) 地域設定の考え方

地域別構想の検討にあたっては、都市の将来イメージの実現に向けた望ましい地域づくりを推進するため、現在のコミュニティ(16地区)の構成を原則遵守するとともに、地域特性、上位計画等での位置づけや関連計画との整合性、都市計画の大きな柱である土地利用・市街地開発事業・都市施設整備に関する新たな動向・施策の方向等を勘案し、次のとおり5つの地域を設定します。

図：地域区分ゾーニング図



(2) 各地域の位置づけ・方向性

新たな都市構造における各地域の位置づけと特色ある地域づくりの方向性について次のとおり示します。

① 中心部地域

太田駅の交通結節機能を活かし、都市機能誘導区域を含む中心市街地ゾーンとその周辺の居住・産業の複合市街地で構成される地域。

② 環状部地域

中心部地域を半円状に取り囲む緑住環境ゾーンとして、田園・丘陵地の自然的空間と融合した落ち着いた居住専用の生活環境を形成する地域であるとともに、中心部と郊外の工業団地・産業施設の無秩序な連担開発を防ぐ緩衝帯としての機能を併せ持つ帯状の地域。

③ 西部地域

郊外の田園地帯に分布する工業・住居系市街地と集落・優良農地で構成される複合的な土地利用とともに、新田地区・尾島地区の地域拠点とその周辺の都市機能の連携やコミュニティ間の交流を促進し、貴重な歴史・文化遺産を継承し活かしながら地域の一体性の強化と市街地整備と産業拠点整備が調和したまちづくりを推進すべき地域。

④ 北東部地域

郊外の田園地帯に分布する工業・住居系市街地と集落・優良農地・丘陵地で構成される複合的な土地利用とともに、太田桐生インターチェンジ周辺の工業団地と中心部地域の産業機能との連携、スマートインターチェンジを活かした周辺の土地利用構想など、集落環境を保全しつつ産業系土地利用を利活用すべき地域。

⑤ 北西部地域

太田藪塚インターチェンジ周辺の複合的な土地利用の方向性やスマートインターチェンジの供用とその周辺構想の動向などを含め都市的なポテンシャルが高まっているため、住居系・非住居系用途の無秩序な混在の是正を図りながら利便性と快適性を備えたゾーン形成を検討することが望ましい地域。

図：地域設定図



表：地区構成表

地域名	構成地区
中心部地域	太田（一部）・九合
環状部地域	太田（一部）・沢野・葦川・鳥之郷・休泊・宝泉（一部）
西部地域	宝泉（一部）・尾島・世良田・木崎・生品・綿打
北東部地域	強戸・毛里田
北西部地域	藪塚東部・藪塚西部

2 地域別構想

(1) 中心部地域

① 地域の現況特性と課題

【地域の位置と概要】

中心部地域は、古くから市の政治、産業経済、文化の中心的役割を果たしてきた太田地区の一部、大規模工業施設、幹線道路沿道の商業施設及びその周辺住宅地からなる九合地区によって地域を形成しています。

近年では、当該地域内で太田市民会館や太田市美術館・図書館の開設、太田駅周辺土地区画整理事業による北口駅前広場の整備、太田駅南口第二地区第一種市街地再開発事業による再開発ビル等の複合施設の整備など、地域の活性化につながる様々な事業が実施されています。

当該地域には、太田駅を中心として東武伊勢崎線、東武桐生線、東武小泉線の3本の鉄道が走っており、連続立体交差事業により駅の高架化も完了しています。

道路については、南北方向の国道407号、東西方向の主要地方道前橋館林線を中心に骨格道路が形成され、地域の南側では、広域交通の利便性が格段に向上する国道354号が開通しており、本市における交通の要衝地を形成しています。

バスについては、地域の中央付近に位置するBUSターミナルおおたに市内路線バスのほか各種高速バスが乗り入れています。またスクールバスも乗り入れており、学生の通学手段の一つとして利用されています。

当該地域の北側には、国指定の史跡であり東日本最大の前方後円墳である天神山古墳が存在しており、地域住民のみならず市民の貴重な財産となっています。

【現況特性と整備課題】

中心市街地における人口の維持・確保

- 車社会のさらなる進行によって、住居機能の郊外化、大型商業施設の郊外進出等が急速に進み、中心市街地においては商業活動の衰退が進んでおり、将来においては定住者の減少と高齢化の著しい進行が予想されています。
- 空き家も増加しつつあるため、中心部としての人口の維持・回復が求められています。

多様な都市機能を備えた魅力と活気ある安全・安心で快適な中心核の形成

- 太田駅及びその周辺は、中心拠点として魅力的な都市景観を形成する必要がありますが、一部には耐震化がされていない老朽建築物や、有効に利用されていない土地等が存在しているため、防災上、景観上などの観点で課題となっており、市の玄関口としてふさわしいシンボル性のある都市環境の整備が求められています。
- 太田駅北側には太田駅周辺土地区画整理事業による駅前広場の整備や太田市美術館・図書館の建設により、にぎわいの創出が期待されています。

- 太田駅南側については市街地再開発事業による高層マンション等の立地によって人口の維持・回復とまちなかのにぎわい回復を図ることが期待されています。
- さらなる人口確保や活性化を推進するため、中心部における生活利便施設の充実など、商店街の活性化による活気と魅力あふれるまちづくりと南北が一体感のある調和の取れた整備が求められています。
- 広域的な中心都市にふさわしい市街地とするため、電線共同溝の整備等により安全かつ快適な歩行空間の確保が求められています。また、市内外からのアクセス性向上のため、公共交通機関や駐車場の整備などの都市基盤の整備が求められています。

中心市街地の活性化

- 太田駅周辺の中心商店街は、利用者ニーズの多様化や高度化、郊外における大型商業施設や沿道型商業施設の進出等により、商店街の魅力や活気が低下しており、空き店舗が増加傾向にあります。
- 消費者ニーズに対応した魅力ある共同施設や集客施設の整備を進め、買い物客や高齢者をはじめとする地域住民にとって、快適で安全な商業空間を整備することが求められています。
- まちの顔である中心市街地内にある南一番街は建物の老朽化や商店の撤退等により、昼間のにぎわいが失われつつあるため、景観及び防災防犯の観点からも、魅力ある商業施設の集積と品格のある景観を形成し、昼間人口の回復とにぎわいの創出が求められています。

良好な住環境形成のための対策と誘導

- 中心市街地の住宅においては、人口減少や高齢化の進行による老朽家屋や空き家の増加と、市街化区域内農地等の未利用地が多く存しています。

穴抜け状の市街化調整区域における市街地整備の検討

- 九合地区においては、市街化区域に囲まれる穴抜け状の市街化調整区域が存在していますが、農地のほか、市民交流の拠点でもある太田市民会館や多くの文教厚生施設、公共施設、さらには地域公共交通の拠点でもあるBUSターミナルおたも立地しており、大型商業施設も隣接するなど市民生活に不可欠な利便施設が集積していることから、今後は都市的土地利用への転換の必要性があります。
- 魅力的で快適な市街地環境の形成に向けて、防災調整機能にも配慮しつつ、計画的な市街地整備の推進が求められています。

幹線道路と公共交通の均衡ある発展

- 国道407号、主要地方道前橋館林線は、通勤時の他、沿道型商業施設の立地等により交通渋滞が激しくなっているため、渋滞緩和に向けた整備推進が求められています。
- 高齢者や運転免許を持たない者などのために、市内外を移動しやすい交通手段の必要性が高まっています。
- 国道407号等の慢性的な交通渋滞の緩和に向けて、自動車交通から公共交通への転換が求められています。
- 駅やバス停へのアクセスがしやすくなるよう歩きやすい環境整備が求められています。

② 地域づくりのコンセプト

【地域の将来像】

中心市街地にふさわしい魅力と活気ある安全・安心で快適なまち

当該地域は、太田市中心市街地にふさわしい魅力ある多様な都市的機能の集積とともに、日常的移動と広域的移動が可能な利便性と快適性の高い交通体系の形成が求められています。こうしたことから、市内外を結ぶ地域公共交通網の再編と道路ネットワークの充実を図る必要があります。

そこで、この地域の将来像を「中心市街地にふさわしい魅力と活気ある安全・安心で快適なまち」として、次のまちづくり目標を設定します。

【地域づくりの目標】

- 中心市街地に適した人口の密度とバランスを保つため、まちなか居住を推進します。
- 交流人口を含め昼間人口を増やし、にぎわいを創出します。
- 交通結節点を活かし、様々な都市機能が集積する空間を形成します。
- 新たな市街地再開発事業や文化機能等の集積を活かし、風格あるまちを創造します。
- 市街地整備を促進し、災害に強く安心できる居住空間を形成します。



(太田駅南口)

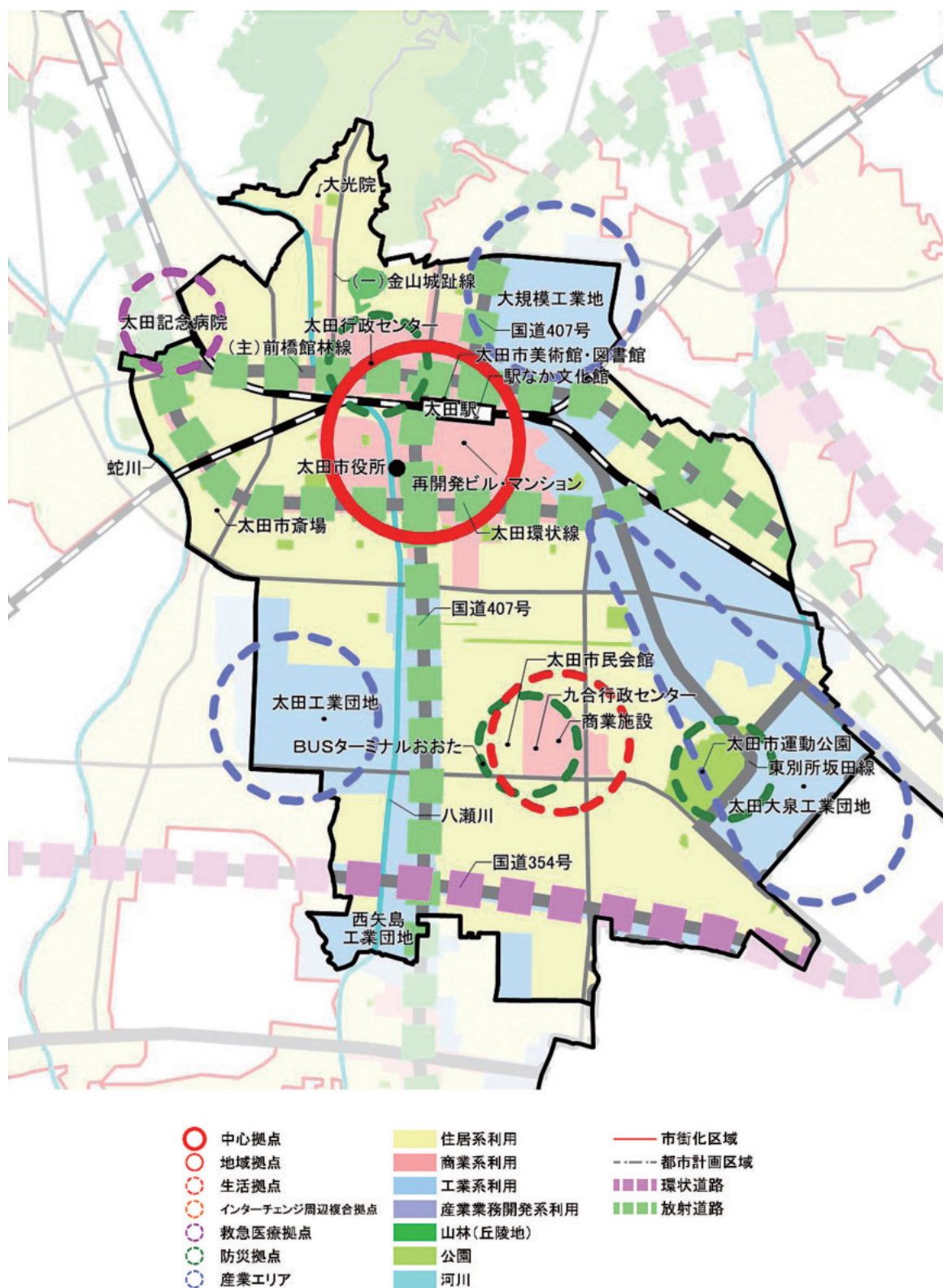


(太田駅周辺再開発)



(太田市民会館)

図：将来地域構造図



③ 地域の整備方針

【土地利用】

商業業務地

- 太田駅周辺は、市全域の中心拠点として多様な都市機能を持った魅力ある商業地として位置づけ、高次都市機能としての医療・福祉・商業施設等の利便施設の集積を図り、誰もが集い、ふれあえる交流空間づくりを進めます。
- 市街地再開発事業等により、土地の高度利用や都市機能の集約・再配置を推進し活性化を図ります。
- 中心市街地周辺の商店街は近隣商業地として位置づけ、本町通りや南一番街をはじめとする商店街の活力を取り戻すため、空き店舗等を活用した起業・創業の促進を図り、にぎわいと活気のある商業環境を形成します。
- 歴史的背景の深い門前商店街などは、空き店舗対策等の促進を図るとともに、大光院やその他観光事業と連携し、にぎわいの創出を図ります。
- 太田北口駅前商店街については、土地区画整理事業と併せ利用者のニーズに対応した整備を進めます。
- 太田駅を活かしたパークアンドライドシステムの導入とともに、商店街などを中心に、誰もが安心して歩ける快適な市街地環境の形成に向け、自動車交通の円滑化にも効果的な駐車場の適正な配置を図ります。
- 国道354号などの幹線道路沿道は、円滑な交通流に配慮しつつ地域間を通行する自動車利用者の利便性を考慮した適正な施設の立地誘導を図ります。
- 飯塚地区の既存商業施設を生活拠点に位置づけ、周辺の生活環境に配慮した商業地として地域住民の利便性向上を図ります。

工業地

- 太田駅北側の大規模工業地は、都市型工業の拠点として工業機能を維持します。
- 太田工業団地と太田大泉工業団地は工業拠点とし、工業拠点機能を強化・育成します。また、西矢島工業団地は、今後も現在の工業機能を維持します。
- 工業団地周辺の土地利用状況等を考慮し、将来における規模拡張の可能性を検討します。

住宅地

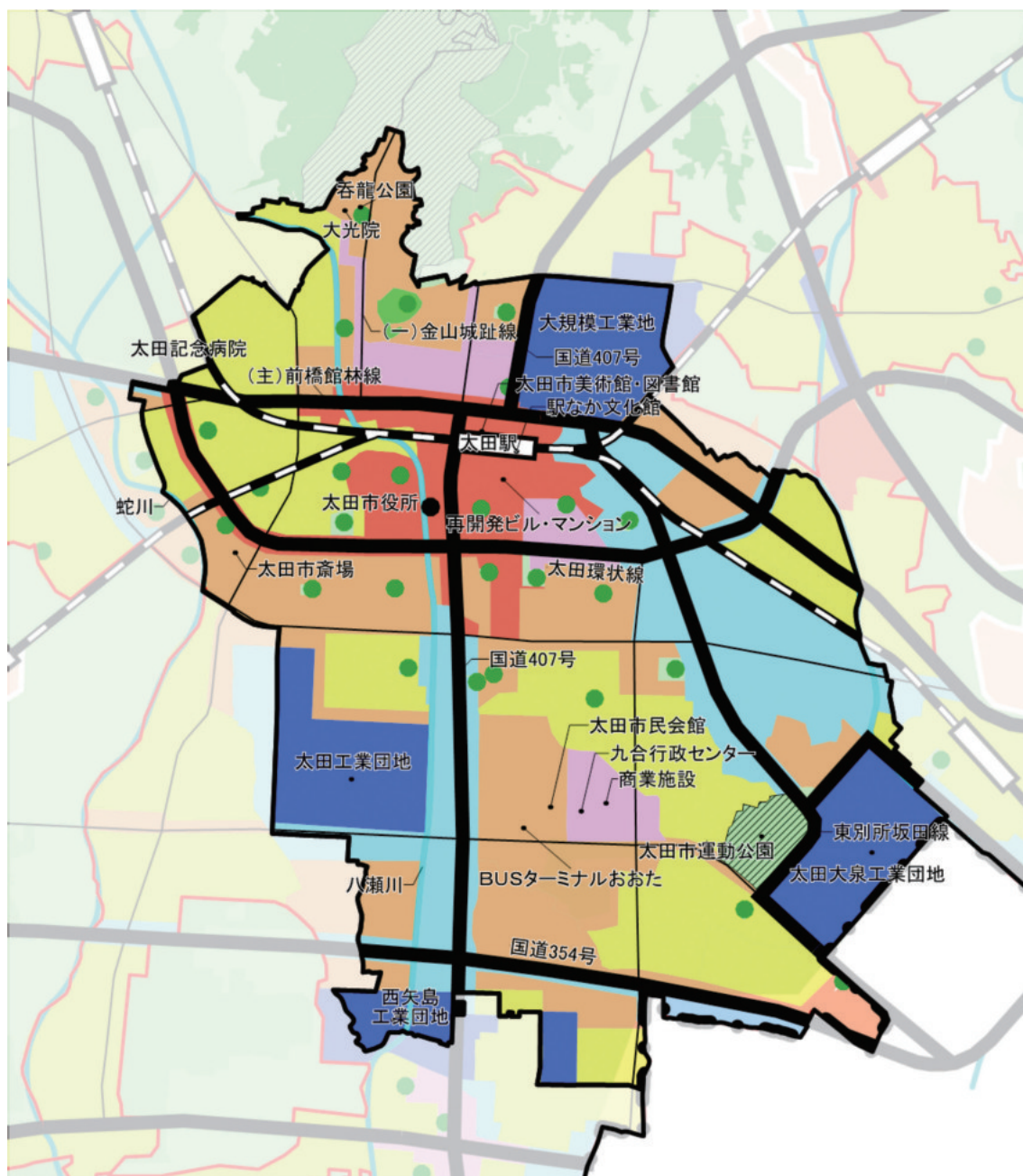
- 太田駅周辺地区及び国道407号、国道354号沿線の市街化区域内住宅地については、中高層を許容する高密度住宅地区を指定します。
- 太田駅周辺地区の一部については、商業機能と住宅機能を併せ持った複合住宅地として位置づけ、再開発事業等により中高層の良好な街並み、住環境を創出します。また定住人口を確保するため、立地適正化計画により居住の適切な誘導を図ります。
- 老朽化や空き家の増加が目立つ住宅地については、耐震化の推進とともに空き家等対策の推進と空き家等の活用の促進を図ります。

- 老朽化や空き部屋の増加が目立つ公営住宅については、改修や建替等を検討します。

市街化調整区域

- 区域内における営農状況や本市における農業と市街地との均衡ある発展にも留意しつつ、活力と
うるおいを兼ね備えた市街地形成に向けた検討を進めます。

図：土地利用方針図



【地域開発】

太田駅周辺土地区画整理事業の推進

- 施行区域面積約31haの太田駅周辺土地区画整理事業は、市街地再開発事業との整合を図りながら事業を推進します。
- 歩行者ネットワークの整備に取り組み、障がい者や高齢者に配慮したバリアフリーの歩行空間整備に努めます。
- 区画道路や公園緑地等の公共施設の整備により良好な住宅地環境を形成し、安全で快適な空間の確保など都市景観の向上に努めます。
- 木造家屋の空き家、空き店舗等の老朽化対策への対応、防火地域・準防火地域の拡大に努め、中心市街地の防火を図り、防災性の高い住宅地を目指します。

市街地再開発事業の推進

- 太田駅南側の市街地再開発事業により高層マンション等が完成し、定住人口の増加とまちなかのにぎわいが期待されており、今後も中心市街地の高度利用と都市機能の更新を図るものとし、さらなる人口増加と活性化を促進するため、民間主導による再開発事業の誘導を継続して行います。
- 太田駅周辺の景観改善と防災性の強化、および再開発地区と連携した高度利用等の可能性を検討し、太田市の玄関口・顔として魅力的な風格のある中心市街地を目指します。

東矢島土地区画整理事業

- 東矢島町、南矢島町の一部地区で施工中の東矢島土地区画整理事業については、道路、公園などの公共施設の整備が終盤を迎え、今後、換地処分に向けた手続きを行い、事業の早期完成を目指します。

東別所南部土地区画整理事業

- 東別所町の一部地区で施行予定の東別所南部土地区画整理事業については、区画整理予定地ではありますが区画整理組合の解散により事業が中止となっているものの、国道354号開通に併せて民間開発による整備が進み、住宅地及び商業施設の開発圧力が高まっているため、用途地域の見直しを図り、良好な土地利用の形成を図るとともに、区画整理を代替する道路及び水路等の基盤整備を行います。

【都市施設整備】

幹線道路の整備

◎主要幹線道路

- 国道407号、主要地方道前橋館林線の整備を進めます。
- 太田環状線(市道1級20号線)は、電線共同溝の整備等により、災害時の安全安心を確保するとともに、景観の向上により快適な歩行空間を創出します。
- 東別所坂田線の整備を推進します。

◎幹線道路

- 一般県道金山城趾線は、観光整備事業と共同で歴史的な風情を残す門前町のシンボルロードとして利活用に努めます。
- 北町通り線は、中心市街地の慢性的な交通渋滞を緩和するため、見直しを含め検討します。

公園・緑地の整備

- 太田市運動公園は、本市のスポーツ振興の拠点並びに良好な緑豊かな環境として維持します。
- 太田市運動公園施設の改修整備を進めます。

下水道の整備

- 東毛流域下水道(西邑楽処理区)関連公共下水道区域の整備を図ります。
- 単独公共下水道区域の整備を図ります。

【都市環境整備】

公共交通の利便性向上

- 太田市地域公共交通網形成計画の内容に即し、交通結節点である太田駅を中心に、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築を図ります。
- 高齢者などの交通弱者も利用しやすい公共交通サービスを提供できるよう関係事業者との連携を図り移動環境の整備に努めます。
- 公共交通の利用促進を図るため、駅やバス停へのアクセス道路や駐輪場等の整備を進め、周辺環境の充実を図ります。

「歴史・水辺の散歩道」のネットワークづくり

- 太田駅の北側を東西に走る日光例幣使道は、歴史のある「みち」として一部が残っており、この道筋を「歴史の散歩道」として、地域住民が身近にふれあう歩行者系道路として整備を進めます。
- 八瀬川などは、親水空間として整備し、この空間を活かした歩行者系道路を「水辺の散歩道」とし、「歴史の散歩道」と併せて、地域交流軸としてのネットワークづくりを推進します。

歴史的環境の保全・整備

- 史跡天神山古墳・女体山古墳整備事業に基づき、周辺環境の保全と整備に努めます。

中心市街地の空地等の保全整備

- 中心市街地の高度利用によって生み出された空地や歩道などのオープンスペースについては、災害時の防災機能とともに地域のうらおいや安らぎを与えてくれる空間として保全・整備を行います。

(2) 環状部地域

① 地域の現況特性と課題

【地域の位置と概要】

環状部地域は、中心部地域を帯状に取り囲むような形になっており、金山の歴史と自然豊かな太田地区の一部、郊外住宅地や田園集落地からなる葦川地区、鳥之郷地区、休泊地区、宝泉地区の一部のほか、国道407号と一般県道綿貫篠塚線が交差し、商業施設や沿道型商業施設の集積など、古くから本市の南玄関口として栄えている沢野地区によって地域を形成しています。

当該地域には、地域の北東部と南西部に東武伊勢崎線の葦川駅と細谷駅、地域の北西部に東武桐生線の三枚橋駅、地域の南東部に東武小泉線の竜舞駅の4つの駅と3本の鉄道が走っており、中心部地域に位置する太田駅に連絡しています。

道路については、南北方向に国道407号、国道122号、東西方向に国道354号、一般県道綿貫篠塚線、主要地方道前橋館林線を中心に骨格道路が形成されています。

当該地域の北側には、金山や大光院に代表される豊かな自然や歴史が多く残っています。また地域全体に緑豊かな田園風景などの原風景も残されており、地域住民のみならず市民の貴重な財産となっています。

【現況特性と整備課題】

計画的で良好な住宅地の形成

- 当該地区は、市街化区域の大部分を住居系用途が占めており、その周辺は豊かな緑に囲まれていて静かな暮らしに適した環境であるため、近い将来、ゆとりある住環境を求める宅地需要が多く生じてくると予想され、市街化区域周辺の市街化調整区域における無秩序な開発が憂慮されています。
- 市街化区域内の空き地や農地などの未利用地においては、良好な住環境を形成するために有効的な土地利用の規制・誘導が求められています。
- 宅地造成が進み人口が増える地域がある一方で、高齢化が進み空き家も増加している地域があり、防災上及び景観上の問題が生じることから、空き家の利活用等の対策が求められています。また、丘陵地の土砂災害等の防災機能を適切に維持する必要があります。
- 市街化区域内に立地する住宅団地・公営住宅の一部では老朽化が進行しているため、安全性や快適性の面からも対策が求められています。

周辺環境に配慮した沿道型商業施設の誘導

- 主要地方道前橋館林線、一般県道綿貫篠塚線などの幹線道路沿道では、交通の利便性を活かして沿道型商業施設の立地が多く見られ、一部においては交通渋滞が発生しています。
- 市街化区域内の幹線道路沿道では、商業・サービス施設等の立地を許容していくことを基本としますが、商業機能の分散化を防止し、地域拠点や生活拠点への集積を図ることが求められています。

幹線道路と公共交通の整備推進

- 交通渋滞緩和に向け、幹線道路の整備推進が求められています。
- 既存の大型商業施設周辺道路では、一定時間帯に渋滞が発生しており、早急な対策が求められています。
- 高齢者や運転免許を持たない者などのために、市内外を移動しやすい交通手段の必要性が高まっています。

自然・歴史的環境の継承と優良農地の保全

- 金山城跡、大光院、金龍寺などの文化財や金山総合公園、西山公園、東山公園などの緑の拠点及びその周辺の山林、市街地周辺の優良な農地、さらに蛇川、八瀬川、休泊堀用水、葦川用水などが南北に流れています。これらの自然的環境や歴史的環境を将来に向けて継承していくとともに、農業振興に配慮した優良農地の保全が求められています。

生活関連施設の維持・保全

- 当該地域には、警察署や消防署などの官公庁施設や、小・中学校、大学等の文教施設など、本市において重要な施設が数多く立地しており、これらの施設については今後も継続し、良好な都市環境の形成に努めていく必要があります。

鉄道駅周辺の安全性と利便性向上

- 当該地域内には、4つの鉄道駅が存在していますが、一部の駅については駅周辺の道路が未整備で狭小であるため、車でのすれ違いが困難な箇所が多く歩行者等が安心して通行できないため、安全性や利便性向上及びバスの乗り入れも可能とする環境の整備が求められています。

② 地域づくりのコンセプト

【地域の将来像】

自然や歴史的資源の豊かな風景とゆとりある居住環境が調和したまち

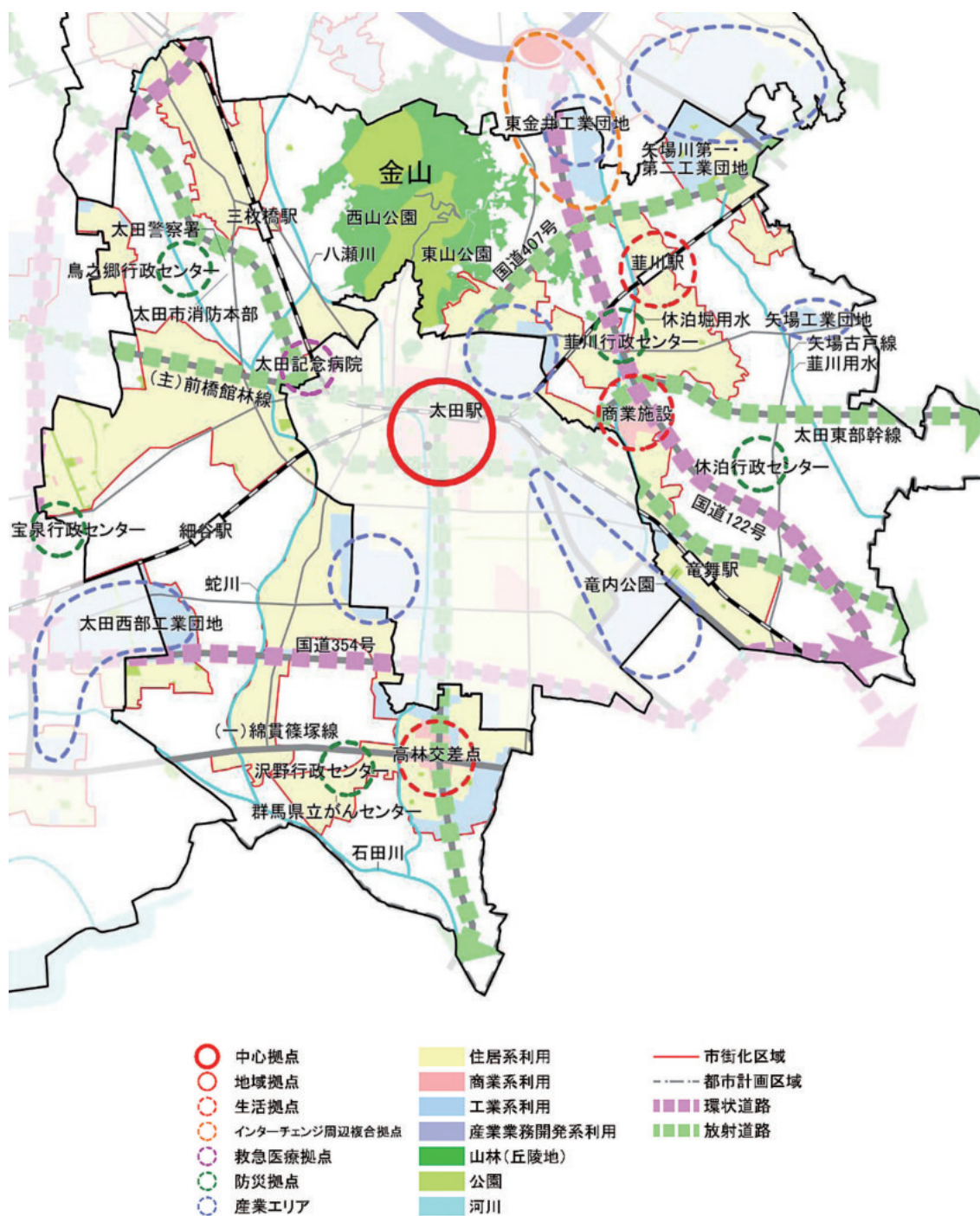
当該地域は、市街化区域内の大部分を住居系用途が占め、ゆとりある居住空間が形成されています。また集積・集約化された農地も多く存在しており、今後も中心部地域を取り囲む緑豊かな環境を活かした快適な調和の取れた居住環境の整備が求められています。

そこで、この地域の将来像を「自然や歴史的資源の豊かな風景とゆとりある居住環境が調和したまち」とし、次のまちづくりの目標を定めます。

【地域づくりの目標】

- a. 自然的環境や歴史的遺産と居住環境とが調和する環境を形成します。
- b. 優良農地を保全し、農業振興を図ります。
- c. 道路網と公共交通が連携した、生活利便性の高い住宅地の形成を図ります。
- d. 自然・歴史環境及び居住環境に配慮した既存施設の維持と保全に努めます。
- e. インターチェンジ周辺を活用し、新たな産業拠点を形成します。

図：将来地域構造図



③ 地域の整備方針

【土地利用】

商業業務地

- 国道407号と一般県道綿貫篠塚線の交差する高林交差点周辺は、商業業務施設の集積を活かした生活拠点とします。
- 韮川駅周辺を生活拠点として位置づけ、バス等の公共交通機関と連携し、アクセスしやすい周辺整備を進めます。
- 既存の大型商業施設を生活拠点として位置づけ、都市機能の維持に努めます。また、道路整備及び土地の有効な利活用を検討し、渋滞緩和と商業活性化を目指します。
- 幹線道路沿道は、自動車利用者の利便性と周辺住宅地の生活利便性の確保のため、沿道型商業施設を生活拠点へ誘導しつつ、無秩序な立地を誘発しない適正な施設立地を図ります。

工業地

- 国道407号沿線の矢場川第一・第二工業団地、一般県道佐野太田線沿線の矢場工業団地は、広域交通の利便を活かしながら、工業機能の維持を図ります。
- 国道122号沿線の東金井工業団地については、工業機能の維持・保全を図るとともに、太田桐生インターチェンジ周辺の好立地条件を活かし、新規産業団地の立地及び市街化区域への編入を検討します。

住宅地

- 市街化区域内は、既存の良好な住環境の維持に努め、未利用地や空き家の活用、除却による新たな土地の活用を促進し、ゆとりある住環境形成を図ります。
- 市街化調整区域は、景観形成としての役割や緩衝帯としての役割など多面的な機能を有している農地を維持・保全するとともに、まちのまとまりを意識した良好な住環境の維持を図ります。
- 老朽化した公営住宅については、現位置や市街化区域内での建替え・大規模改修を検討し、公営住宅の安全性・快適性を高めます。
- 老朽化が進行した住宅については、建替え・耐震改修による耐震化や住宅リフォームの推進により、安全性・利便性・快適性を高め、人口の維持・確保を図ります。

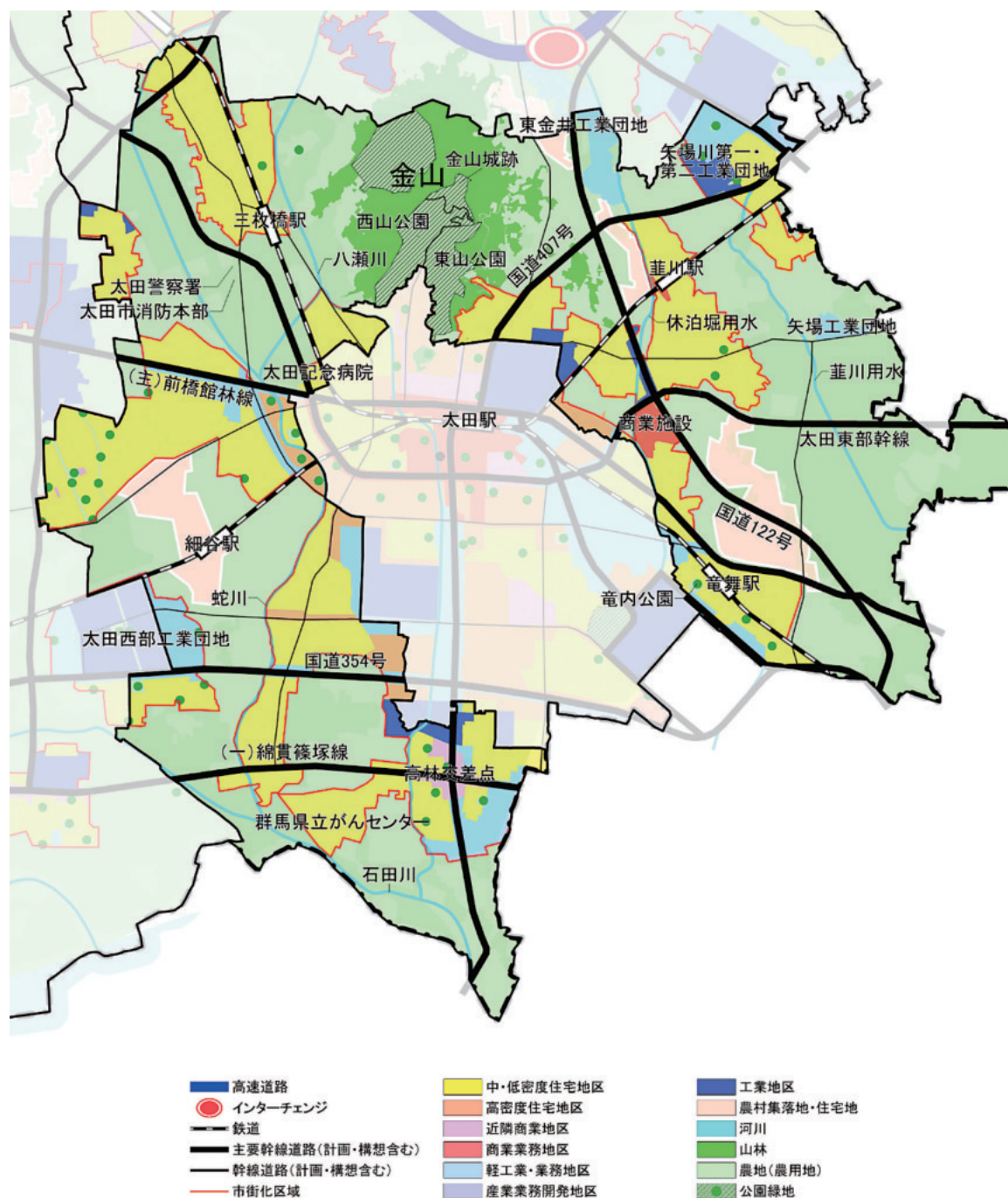
農地・農村集落地

- 連たんする農地については、原則として保全に努めます。また、農村集落地は現在の農地と住宅地が調和する良好な住環境を維持していく地域とします。
- 既存の集落地におけるコミュニティはまちのまとまりを維持するとともに、農村景観に十分配慮しながら原風景の保全を図る集落を形成します。

水・緑・山林

- 金山とその周辺に集中する緑・山林は良好な自然環境として維持・保全します。
- 蛇川、八瀬川、休泊川などの河川等は、地域の憩いの場として良好な水辺環境を維持・整備します。

図：土地利用方針図



【都市施設整備】**幹線道路の整備**

◎主要幹線道路

- 両毛地域の交通の円滑化を図るため、太田環状線を延伸させた太田東部幹線の整備及び延伸について検討します。

公園・緑地の整備

- 観光資源でもある金山城跡、西山公園、東山公園及び大光院を結ぶ遊歩道の維持管理を行います。

下水道の整備

- 東毛流域下水道(西邑楽処理区)関連公共下水道区域の整備を図ります。
- 東毛流域下水道(新田処理区)関連公共下水道区域の整備を図ります。
- 単独公共下水道区域の整備を図ります。
- 管渠の整備と併せ、終末処理場の処理能力の向上に努めます。
- 特定環境保全公共下水道事業を含め、公共下水道の計画処理区域を拡大整備します。

教育文化施設の整備

- 太田市立太田高等学校については、用地の整備に努めます。

河川への排水機能の強化

- 石田川、聖川は上流部の開発や利根川河床との高低差の問題から、浸水・洪水の発生が懸念されます。よって河川改修・堤防強化・排水施設整備・河川管理強化等により、浸水・洪水に対する防災機能の強化を図ります。

官公庁施設及び文教施設等の維持

- 警察署、消防署、法務局などの官公庁施設及び市立太田高校や関東学園大学などの文教施設を維持します。

福祉関連施設の維持

- 既存の太田養護学校や高齢者総合福祉センターなどの福祉関連施設は高齢者の健康増進や障がい者等の社会的支援を促進するため、既存施設の維持と機能確保に努めます。

生活関連施設の整備

- 新たなごみ焼却施設の整備を進めます。

【都市環境整備】**公共交通の整備**

- 駅や各拠点間を結ぶ公共交通ネットワーク整備を推進します。
- 公共交通の再編とともに、駅やバス停へアクセスする生活道路網の形成と歩きやすい環境整備を推進し、徒歩・自転車・自動車の安全かつ円滑な動線の確保やバリアフリー化を図ります。

金山周辺の整備

- 国指定史跡金山城跡の発掘調査を行い、城跡の全容の把握に努めるとともに、保存活用を図ります。併せて、周辺環境との調和ある整備を図ります。
- 土砂災害警戒区域等に指定されている区域については、安全確保と周知に努めます。

水辺環境の整備

- 休泊堀用水や菰川用水などは親水空間として整備し、この空間を活かして歩行者系道路を「水辺の散歩道」とし、地域の交流軸としてのネットワークづくりを推進します。

河川などの自然環境の保全整備

- この地域の中央を南北に流れる蛇川、八瀬川と南部に流れる石田川、利根川の水辺を活かした自然環境の保全整備に努めます。

平地林の整備

- 緑豊かな潤いのあるまちづくりを目指し、森や林が減少傾向にあるなか、平地林を造成し緑豊かな空間を創出していくことで、憩いと安らぎのある場所を創出します。



(大光院)

(3) 西部地域

① 地域の現況特性と課題

【地域の位置と概要】

西部地域は、宝泉地区の一部に加えて、尾島地区、世良田地区、木崎地区、生品地区、綿打地区によって地域を形成しています。

当該地域には、地域のほぼ中央を東武伊勢崎線が走り、世良田駅、木崎駅が立地し中心部地域に位置する太田駅に連絡しています。また道路は、主要地方道前橋館林線、主要地方道足利伊勢崎線、国道354号、一般県道綿貫篠塚線、国道17号を中心に骨格道路が形成されています。

当該地域には、豊かな田園地帯や樹林地など原風景が残されており、市民の貴重な財産となっています。また新田荘遺跡をはじめとする多くの歴史・文化遺産や世良田祇園まつりなどの伝統ある行事等も継承されています。

【現況特性と整備課題】

活気ある産業拠点と周辺環境が調和した安全・安心な市街地の形成

- 当該地域には、田園集落空間が広がる中で、大規模工業団地が点在し、その周辺で住宅地や小規模店舗等の立地が見られます。
- 地域の原風景である田園や樹林地の保全・再生を前提としながら、活気ある産業拠点の維持、田園風景と調和した住宅地の保全を図り、地域の特性を活かした良好な市街地を形成することが必要となります。
- 地域住民の安全確保と工業物流の効率化を図るために、産業動線と生活動線の分離を図ることが重要となっています。

既存集落等のコミュニティ維持と計画的で良好な住宅市街地の形成

- 当該地域には、市街化区域内に未利用地が多く見られる中で、市街化調整区域においては、既存集落地のほか開発許可等による住宅の立地が多く見られます。
- 古い住宅団地内には、建物の老朽化や空き家、空き地等が存在し増加傾向にあります。
- 既存集落地や住宅団地については、既存のコミュニティを維持するため、良好な住環境と移動しやすい環境を形成することが重要となります。
- 高齢者や運転免許を持たない者などのために、市内外を移動しやすい交通手段の必要性が高まっています。
- 計画的な基盤整備に伴う良好な住宅地を形成するため、宝泉南部地区、尾島東部地区における土地区画整理事業の推進がますます重要となっています。

周辺環境に配慮した沿道型商業施設の適正な立地と各種拠点への生活サービス施設の集積

- 国道354号、主要地方道前橋館林線、一般県道綿貫篠塚線などの幹線道路沿道では、交通の利便性を活かして沿道型商業施設の立地が多く見られ、一部においては交通渋滞が発生しています。
- 市街化区域内の幹線道路沿道では、商業・サービス施設等の立地も見られることから、基本的には商業機能の分散化を防止し、地域拠点や生活拠点への集積を図ることが重要となっています。

自然環境の継承と優良農地の保全整備

- 利根川、早川、石田川などの河川緑地、集落地に見られる屋敷林などは、地域を特徴付ける自然環境となっています。また、近郊農業が盛んな土地改良事業が実施された優良農地は田園風景の基礎を成しています。
- 河川緑地、屋敷林をはじめ、北西部の森林などの自然環境は、都市の環境を保持する自然地として積極的に保全を図るとともに、土地改良事業などによる優良農地については保全・整備が重要となっています。

利根川周辺の災害対策

- 利根川周辺は大部分が浸水想定区域内に指定されており、区域内には多くの既存集落が存在していることから、災害への対策が課題となっています。

② 地域づくりのコンセプト

【地域の将来像】

自然や歴史的資源の豊かな原風景と産業環境が調和したまち

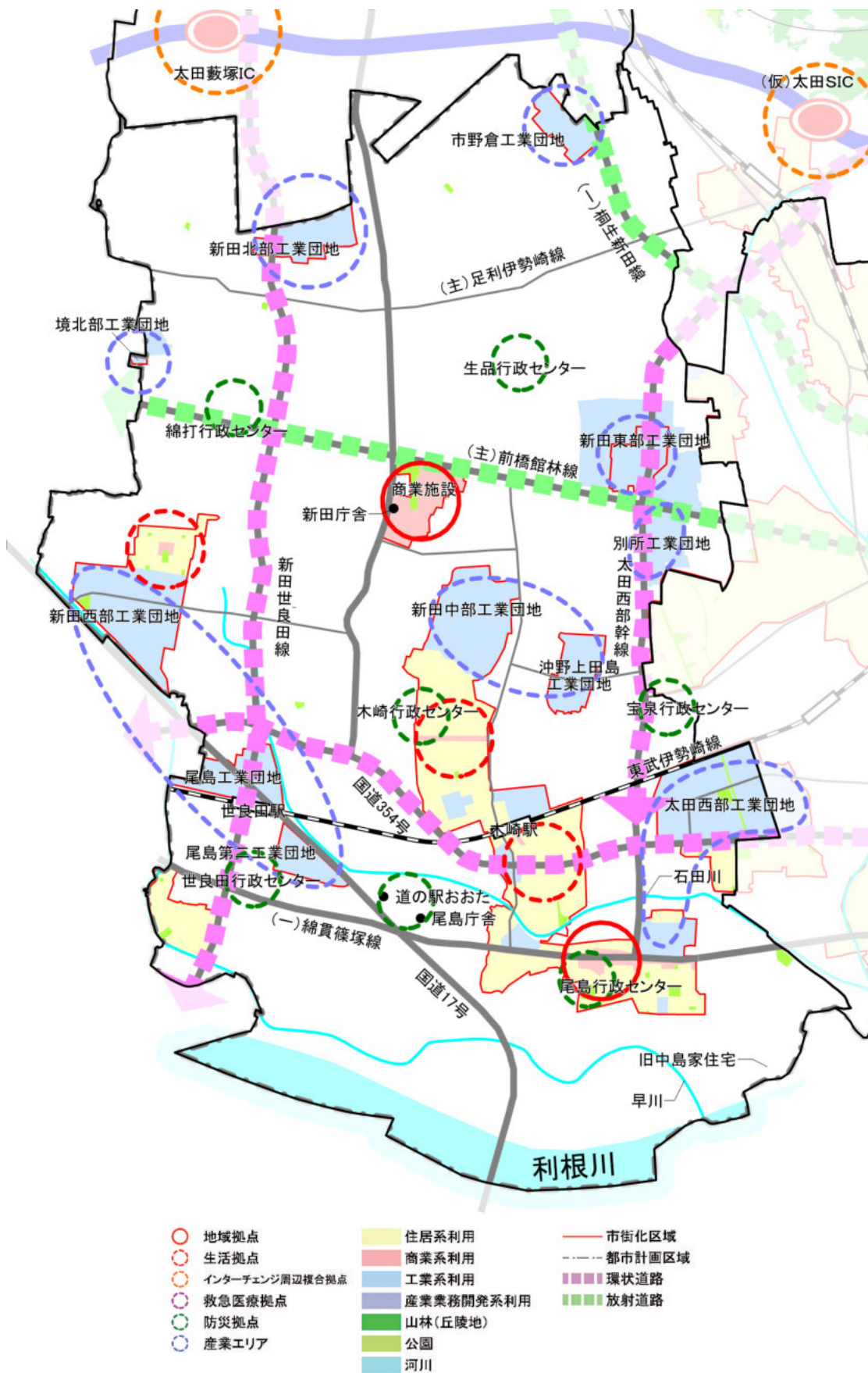
当該地域は、自然環境を保全整備する役割と北関東自動車道を活かした産業拠点としての大きな役割があります。

そこで、この地域の将来像を「自然や歴史的資源の豊かな原風景と産業環境が調和したまち」とし、次のまちづくりの目標を定めます。

【地域づくりの目標】

- a. 地域の特性に応じた魅力ある地域拠点、生活拠点を形成します。
- b. 既存集落についてはコミュニティ維持とともに、移動しやすい生活環境を形成します。
- c. 幹線道路の整備により、安全・安心な住環境の確保と、物流の効率化による活気ある産業拠点の維持・発展を目指します。
- d. 歴史・文化遺産を保全整備し、魅力的なまちづくりを推進します。
- e. 豊かな湧水、河川緑地や樹林地など自然環境や優良農地を保全します。

図：将来地域構造図



③ 地域の整備方針

【土地利用】

商業業務地

- 主要地方道前橋館林線沿道に位置する公共施設、大規模商業施設、親水公園等のある一帯は「新田地域拠点」として位置づけ、都市的な付加価値の高い地域として充実していきます。
- 尾島地区の一般県道綿貫篠塚線沿道の商業地域を含めた公共施設の集積箇所は「尾島地域拠点」として位置づけ、商業施設や生活利便施設等の誘導を推進し生活利便性の高い地域を目指します。
- 木崎駅周辺の商業施設、いずみ住宅団地内の商業施設は、地域住民における「生活拠点」と位置づけ、個性・利便性・快適性の調和のとれた商業地とします。
- 幹線道路沿道は、自動車利用者の利便性と周辺住宅地の生活利便性の確保のため、沿道型商業施設を地域拠点や生活拠点へ誘導し、無秩序な立地を誘発しない適正な施設立地を図ります。

工業地

- 地域内に点在する大規模工業団地等は「産業拠点」として位置づけ、原風景との調和を図り、生産性の高い工業拠点機能を強化・育成します。
- 基幹産業である輸送用機械器具製造業を維持・発展させるため、既存工業団地の拡張を検討します。土地利用にあたっては民間活力の活用を視野に入れながら、さらなる工業用地の確保を検討します。

住宅地

- 市街化区域内は、既存の良好な住環境の維持に努め、未利用地や空き家の活用、除却による新たな土地の活用を促進し、ゆとりある住環境形成を図ります。
- 市街化調整区域内の住宅地等については、まちのまとまりを意識した良好な住環境の維持を図ります。
- 木崎駅周辺の住宅地については、駅やバス路線の充実等、公共交通を活かした利便性の高い住宅地環境の形成を図ります。
- 老朽化した公営住宅については、現位置や市街化区域内での建替え・大規模改修を検討し、公営住宅の安全性・快適性を高めます。
- 老朽化が進行した住宅については、建替え・耐震改修による耐震化や住宅リフォームの推進により、安全性・利便性・快適性を高め、人口の維持・確保を図ります。

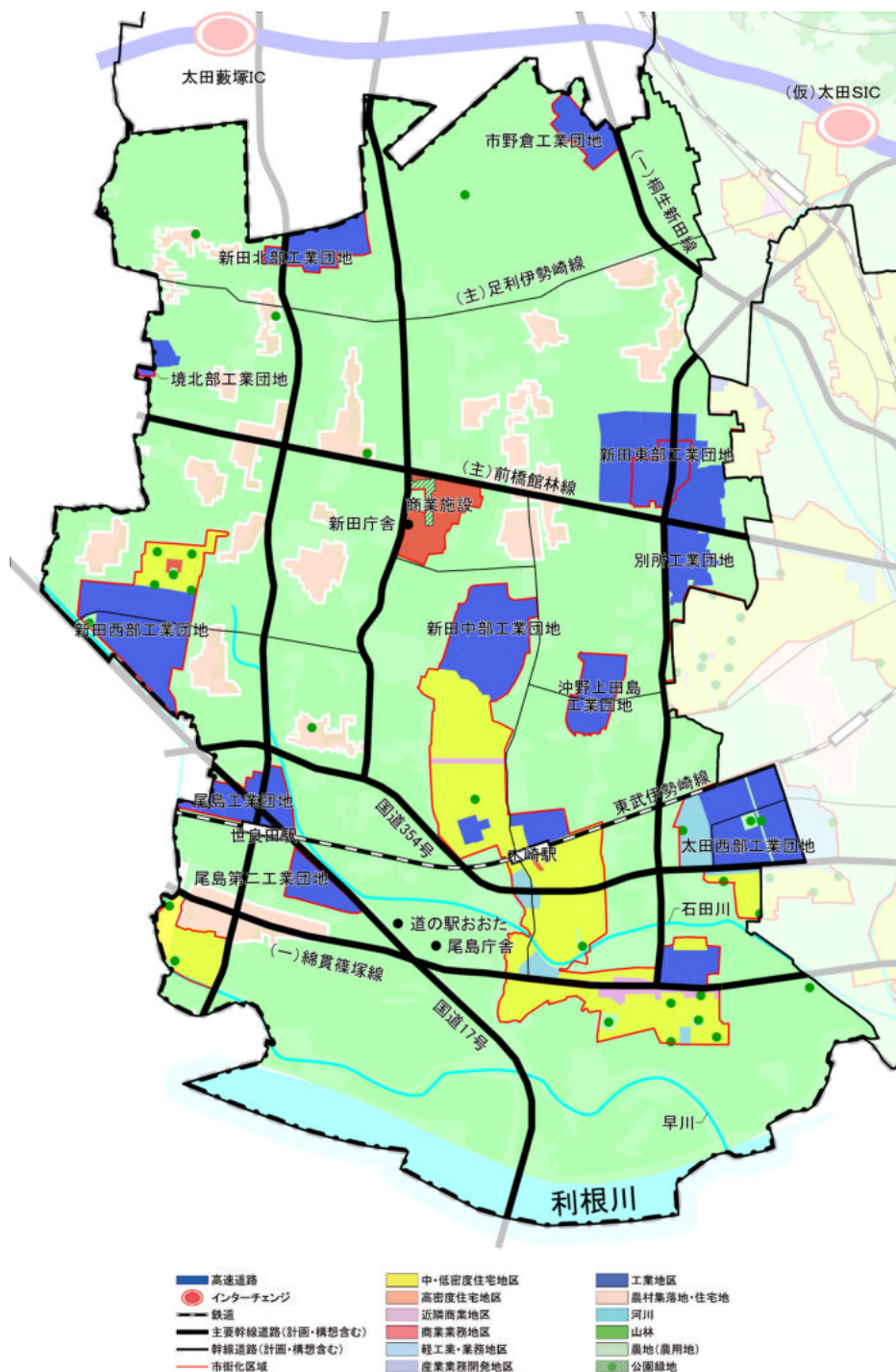
農地・農村集落地

- 市街化調整区域に点在する農村集落地については、土地改良実施地区などの優良農地の保全に配慮し、農地の集積・集約に努め、良好な住環境の維持・形成に努めます。
- 耕作放棄地については、耕作放棄地解消事業に基づき優良農地の保全を図るとともに、耕作放棄地発生を未然に防ぐため、農地の貸し借り等の推進を図ります。
- 農村景観に十分配慮した整備を図りながら原風景の保全を図る集落を形成します。

水・緑・山林

- 利根川、早川、石田川などの河川緑地、新田の運動公園、尾島公園、各地で見られるスポーツ広場や公園などは、地域の憩いの空間として維持・保全します。
- 利根川河川敷に整備が計画されている河川緑地については、広域的な緑の拠点として整備を推進していきます。
- 北部の市野倉地区周辺の森林は、地区の道路や桜並木として親しまれている遊歩道との一体的な維持・保全に努めます。

図：土地利用方針図



【地域開発】

宝泉南部土地区画整理事業の推進

- 宝泉南部地区については土地区画整理事業により、宅地造成及び幹線街路・区画道路・公園を整備し、良好な住環境の整備と防災上安全な市街地形成を図るため、事業を推進します。

尾島東部土地区画整理事業の推進

- 尾島東部地区では、尾島生活拠点としてふさわしい良好な住環境の整備と防災上安全な市街地形成を図るため、土地区画整理事業と併せて、公園整備等を推進します。

新田東部工業団地周辺の用地拡張事業の推進

- 新田東部工業団地は本市における基幹産業である輸送用機械器具製造業に関連する企業が多く、好調な経済状況に伴い新たな用地取得の需要が高まってきているため、既存の工業環境の維持・保全を図りつつ、周辺の農地や景観などの自然環境に配慮した既存工業団地の拡張整備を推進します。

境北部工業団地拡張事業の推進

- 境北部工業団地は隣接する伊勢崎市と跨がって立地していますが、北関東自動車道への交通利便性を活かし、周辺の田園環境と調和した工業団地の拡張を推進します。

【都市施設整備】

幹線道路の整備

- 太田市の外環状線を形成し、北関東自動車道と国道354号を結ぶ地域交通の主軸となる太田西部幹線を産業機能連携軸として位置づけ、整備に努めます。
- 西の玄関口となる新田世良田線は、北関東自動車道のアクセス路として産業機能連携軸に位置づけ、緑豊かで開放的な道路景観とし、原風景と融合した道路整備に努めます。

公園緑地の整備

- 宝泉南部・尾島東部土地区画整理事業地内の近隣公園及び街区公園を地区の緑の拠点として、防災面にも配慮した施設整備に努めます。
- 利根川、早川、石田川の3河川は、都市の骨格を形成する河川であるとともに、身近な自然環境を提供する市街地内の貴重なオープンスペースであるため、浸水等の治水への配慮とともに生態系に十分配慮し、親水空間の保全及び活用、自然にやさしい緑化護岸等の整備を促進し、自然環境の保全に努めます。
- 大川親水緑地公園の保全に努めます。
- 歴史公園内は世良田東照宮をはじめとする貴重な文化財が集中しているため、維持・保全に努めます。

下水道の整備

- 東毛流域下水道(新田処理区・佐波処理区)関連公共下水道区域の整備を図ります。
- 公共下水道事業区域内においては水質浄化のPRを行うとともに、下水道整備の重要性に対する市民の認識を深め、市民とともに下水道整備の充実に努めます。また、公共下水道事業区域外においては、市街地との整合性に留意し、快適な農村環境づくりに努めます。

河川への排水機能の強化

- 早川、石田川は上流部の開発や利根川河床との高低差の問題から、浸水・洪水の発生が懸念されます。よって河川改修・堤防強化・排水施設整備・河川管理強化等により、浸水・洪水に対する防災機能の強化を図ります。

【都市環境整備】

公共交通の整備

- 各拠点間を結ぶ公共交通ネットワークの整備を推進します。
- 公共交通の再編とともに、駅やバス停へアクセスする生活道路網の形成と歩きやすい環境整備を推進し、徒歩・自転車・自動車の安全かつ円滑な動線の確保やバリアフリー化を図ります。

総合的な文化交流拠点の整備

- 国の重要文化財に指定されている旧中島家住宅(中島知久平邸)については、引き続き整備及び保存に努めます。
- 国道17号沿道に整備した道の駅おおたは、道路利用者の利便性の向上とともに貴重な情報発信拠点として維持し、新たに整備を行っている旧中島家住宅(中島知久平邸)などの観光拠点と連携し、今後も観光客の誘致と観光振興の発展に努めます。

「歴史の散歩道」・「中世史ネットワークづくり」の推進

- この地域を東西に走る日光例幣使道は、木崎宿の当時の面影が残る貴重な街並みであるため、「歴史の散歩道」として、歩行者系道路として位置づけます。
- 新田荘遺跡など新田氏関係の史跡を整備するとともに、それら史跡を核として「中世史ネットワークづくり」に努め、併せて回遊性の高い環境づくりに努めます。



(旧中島家住宅)

(4) 北東部地域

① 地域の現況特性と課題

【地域の位置と概要】

北東部地域は足利市、桐生市と接し、強戸地区、毛里田地区によって地域を形成しています。

この地域は、東西に北関東自動車道、主要地方道足利伊勢崎線、南北に国道50号、国道122号、主要地方道太田大間々線が走っています。東今泉町地内には北関東自動車道「太田桐生インターチェンジ」が設置されており、平成30年には北金井町地内に「(仮称)太田スマートインターチェンジ」の開設が予定されています。

東武桐生線の治良門橋駅があり、石橋地区商店街を中心とした生活拠点を有するとともに八王子丘陵など豊かな自然環境や農地の保全地域としての役割を担っています。また、自然環境を活かした観光名所である太田市北部運動公園も整備しており、市民のみならず広域からの誘客が可能な地域となっています。

更に、国道50号沿道や北関東自動車道周辺には産業・物流拠点が形成され、本市の産業活性化の一役を担っています。

【現況特性と整備課題】

北関東自動車道インターチェンジ周辺の開発整備

- 北関東自動車道(仮称)太田スマートインターチェンジの供用に伴い、インターチェンジを中心とした広域交通ネットワークの形成と、周辺の幹線道路網の整備、自然環境や生活環境と調和した周辺整備が課題となっています。
- 本市工業団地は完売状況であるが工業進出の需要は高く、さらなる工業都市としての発展に資するため、太田桐生インターチェンジ周辺の好立地条件を活かし、基幹産業である輸送用機械器具製造業のみならず多種多様な需要に応えられる産業拠点の整備が必要とされています。

おおた渡良瀬産業団地の整備

- 国道50号沿道には太田リサーチパーク、太田流通団地や東部工業団地など産業拠点が立地しており、北関東自動車道の開設により立地条件が向上したことから、産業拠点としての強化を図るため、相互に機能が連携する産業地域としての整備が重要となっています。

公共交通の整備推進

- 高齢者や運転免許を持たない者などのために、市内外を移動しやすい交通手段の必要性が高まっています。

自然環境の継承と優良農地の保全整備

- 八王子丘陵、菅塩沼、金山周辺の山林、渡良瀬川河川緑地などの豊かな自然環境と優良農地は良好な状態で継承していくことが課題となっています。

渡良瀬川周辺の災害対策

- 渡良瀬川周辺は浸水想定区域に指定されており、災害への対策が課題となっています。

② 地域づくりのコンセプト

【地域の将来像】

産業拠点と自然環境・生活環境が調和するまち

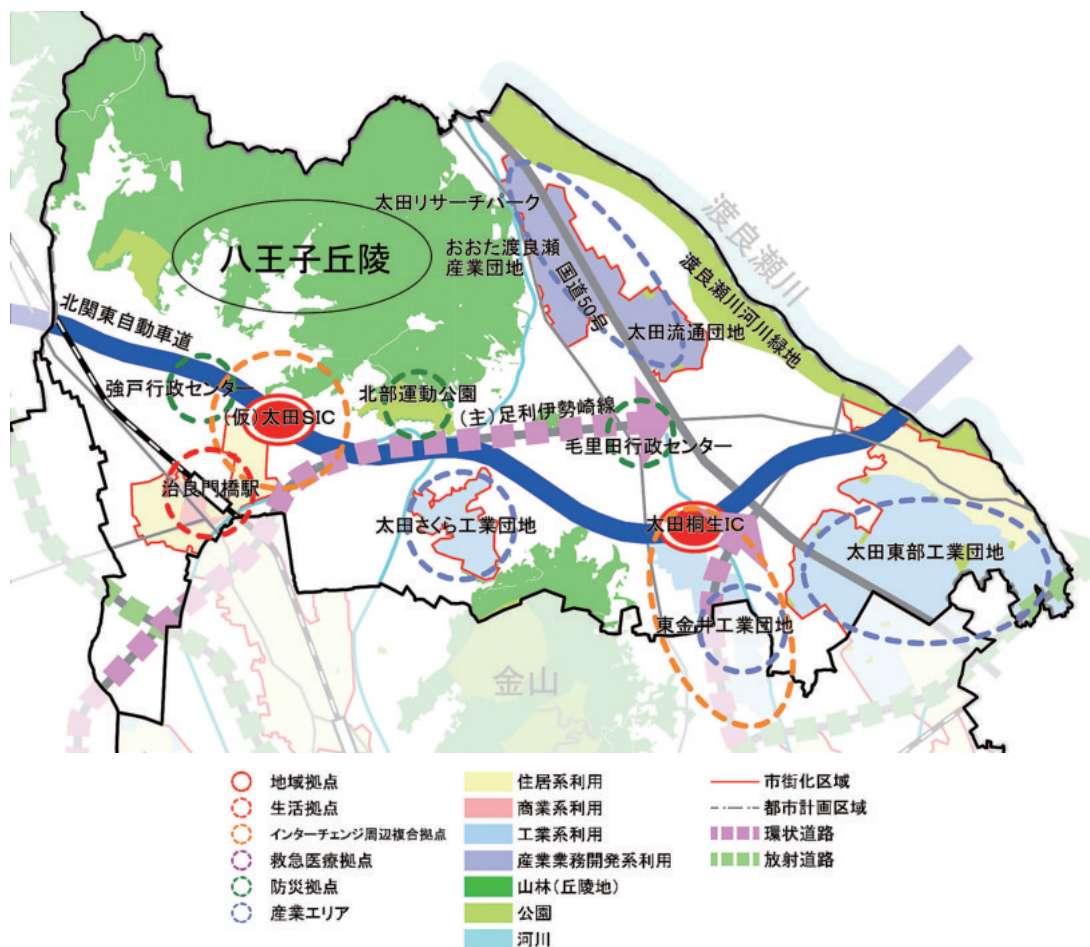
当該地域は、自然環境を保有する住みやすい生活環境づくりとともに、より働きやすい就労環境づくりを進め、新たな就業者の確保・定着を図ります。また本市の最大の特徴である「ものづくり」の産業集積の利点を活かし、さらなる工業用地の確保と、新たな産業構造の構築を図ることが重要となります。

そこで、この地域の将来像を「産業拠点と自然環境・生活環境が調和するまち」として、次のまちづくりの目標を定めます。

【地域づくりの目標】

- a. さらなる産業集積を図ります。
- b. 職住近接の土地利用形態を活かした働きやすいまちづくりを進めます。
- c. 公共交通を活かした道路網を形成し、生活環境の向上に努めます。
- d. インターチェンジのポテンシャルを活かした周辺整備を進めます。
- e. 地域の歴史的環境を保全整備します。
- f. 豊かな自然環境や優良農地を保全します。

図：将来地域構造図



③ 地域の整備方針

【土地利用】

商業業務地

- 治良門橋駅周辺は生活拠点として位置づけ、公共交通と連携した拠点機能の維持に努めます。

産業業務地

- 太田リサーチパーク、太田流通団地に加え、隣接する吉沢町・原宿町に新たな産業団地として「おおた渡良瀬産業団地」を整備し、産業拠点として強化を図ります。
- 北関東自動車道太田桐生インターチェンジ南側に、好立地条件を活かした新たな産業団地を整備し、工業機能や流通機能のさらなる集積を図ります。
- 本地域2箇所にある太田国際貨物ターミナルは、市内企業の物流及び経済の活性化のために重要であるため、物流拠点として機能維持に努めます。

工業地

- 太田流通団地は流通機能用地、太田東部工業団地・太田さくら工業団地は工業用地として、今後も工業機能の維持を図るとともに、周辺の土地利用状況等を考慮し、将来における規模拡張の可能性を検討します。

住宅地

- 市街化区域内は、既存の良好な住環境の維持に努め、産業機能集積地(産業拠点)近傍への居住誘導、未利用地や空き家の活用、除却による新たな土地の活用を推進し、ゆとりある住環境形成に努めます。
- 市街化調整区域内については、無秩序な市街化を抑制するとともに既存集落のコミュニティ維持と営農環境の保全に努めます。
- 老朽化した公営住宅については、建替え・大規模改修を検討し、公営住宅の安全性・快適性を高めます。
- 老朽化が進行した住宅については、建替え・耐震改修による耐震化や住宅リフォームの推進により、安全性・利便性・快適性を高め、人口の維持・確保を図ります。

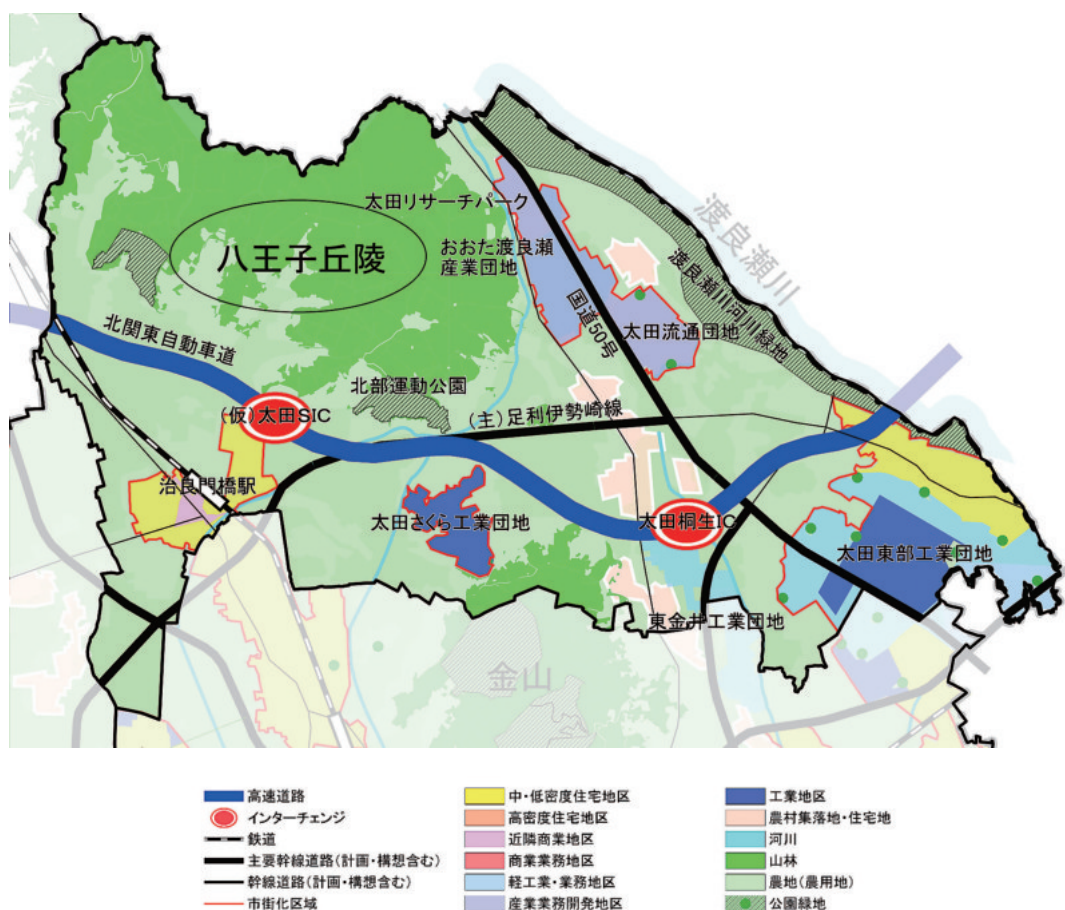
農地・農村集落地

- 土地改良事業により整備された連たんする農地については、保全に努めます。また、農村集落地は今後も農地と住宅が調和する良好な住環境の保全整備を図ります。

水・緑・山林

- 八王子山丘陵や渡良瀬川河川緑地などは、緑の環境を備えた地区として将来に継承します。

図：土地利用方針図



【地域開発】

おおた渡良瀬産業団地の整備

- 新たな産業団地として「おおた渡良瀬産業団地」の整備を進めます。整備にあたり、新たなエネルギー資源を活用した環境にやさしい産業団地の造成を検討します。

北関東自動車道太田桐生インターチェンジ周辺地区整備

- 北関東自動車道太田桐生インターチェンジ周辺は国道50号と国道122号に隣接するなど、広域交流連携軸に近接した恵まれた立地条件を活かし、既存の産業・流通団地と連携した新たな産業団地の整備を図ります。

北関東自動車道(仮称)太田スマートインターチェンジ周辺地区整備

- 北金井町地内に開設予定の北関東自動車道(仮称)太田スマートインターチェンジ周辺については「インターチェンジ周辺複合拠点」として位置づけ、太田市北部運動公園等をはじめとする周辺地域資源との一体的な活用も視野に入れ、市の新たな玄関口にふさわしい、地域振興、観光、産業等にも寄与する付加価値の高い周辺整備を進めます。

【都市施設整備】

幹線道路の整備

- 北関東自動車道太田桐生インターチェンジに加え、(仮称)太田スマートインターチェンジの整備に伴い増大する周辺の交通量を処理し、地域を活性化するため、幹線道路や都市計画道路の整備と検討を進めます。

公園・緑地の整備

- 八王子丘陵にある太田市北部運動公園については観光地としての魅力を高めるための整備を行い、また八王子山公園(墓園)は環境保全に努めます。
- 渡良瀬川河川緑地については、豊かな緑地の保全とともに市民ニーズに対応した積極的な利活用を検討します。

河川の災害対策

- 渡良瀬川周辺の水害対策として、利根川水系渡良瀬川河川整備計画に基づき、洪水等による災害の発生防止及び軽減に努めます。

【都市環境整備】

公共交通の整備

- 治良門橋駅周辺は、公共交通と連携し利便性の向上を検討します。
- 各拠点間を結ぶ公共交通ネットワークを検討します。また、(仮称)太田スマートインターチェンジを活かした高速バス路線等も検討します。

歴史の散歩道

- 「丸山の宿通り」は、歴史的街並み景観の拠点として保全整備に努めます。

水辺の散歩道

- 蛇川、大谷幹線などは、親水空間として、この空間を活かした歩行者系道路を「水辺の散歩道」とします。

文化財の保存整備

- 上野国新田郡家跡については、新田郡家全域の解明を進めるとともに、史跡を中心とした地域の保存整備・活用に努めます。



(5) 北西部地域

① 地域の現況特性と課題

【地域の位置と概要】

北西部地域は、比較的平坦な地形を活かして農業を中心とした都市として発展してきた旧藪塚本町の行政区域と一致しており、八王子丘陵を背後に東武桐生線藪塚駅を中心とした藪塚東部地区、藪塚本町庁舎西側地域の藪塚西部地区によって地域を形成しています。

当該地域には、地域の玄関口である東武桐生線藪塚駅が位置しており、また、主要地方道太田大間々線、主要地方道大間々世良田線、主要地方道桐生伊勢崎線、一般県道桐生新田木崎線、一般県道国定藪塚線を中心に骨格道路が形成されています。地域の南側に北関東自動車道及び太田藪塚インターチェンジが整備されています。

当該地域の東側に位置する八王子丘陵をはじめ、豊かな田園地帯と岡登用水などは、地域住民のみならず、市民の貴重な財産となっています。

また、やぶ塚温泉やジャパンスネークセンターなど、古くから観光地として栄え、市内でも貴重な観光資源が豊富な地域となっています。

【現況特性と整備課題】

都市化の進展に対応した合理的な土地利用、良好な市街地の形成

- 本地域は区域区分を定めない非線引き都市計画区域ですが、特定用途制限地域の指定により工場等の建築を制限し、一定の規制は行われているものの、住宅の拡散や農地・住宅・工場の混在は解消されていないため、それぞれの良好な環境の維持を目的とする区域区分(線引き)の指定とともに、太田都市計画との統合が課題となっています。

都市の骨格を形成する幹線道路の整備と公共交通の充実

- 主要地方道や一般県道など主要幹線道路での店舗立地や、太田藪塚インターチェンジの開設等による通過交通の増加により、朝夕のラッシュ時を中心に交通量が増加しています。一方、都市計画道路として8路線が計画決定されていますが、未整備区間があります。
- 都市としての利便性や快適性を高めていくためには、道路の機能分担や整備の必要性を明確にし、交通渋滞の解消、住宅街への通過交通の進入防止に寄与する幹線道路の整備を進めるとともに、歩行者の安全性や沿道環境の快適性を重視した「歩きやすい道づくり」を進めていく必要があります。
- 高齢者や運転免許を持たない者などのために、市内外を移動しやすい交通手段の必要性が高まっています。
- 鉄道をより効率良く活用するため、新たな公共交通を検討する必要があります。

自然環境、優良農地の保全と耕作放棄地対策

- 八王子丘陵は豊かな自然環境が残された貴重な財産であり、また、岡登用水は河川のない本地域にとって貴重な水辺空間です。また、農地の宅地への転用が進み、農地は減少しているものの、農業生産は施設園芸等を主力に首都圏の生鮮野菜の供給地となっています。

- 八王子丘陵や岡登用水などの自然環境の保全を前提として、自然とふれあうことができるよう整備していくことが必要となります。
- 農地については生産基盤としてだけでなく多様な機能(環境、景観、防災等)を有しており、優良な農地は積極的に保全していくことが必要となります。さらに優良農地での耕作放棄による荒廃化や遊休化を防止するため、集約化・利用増進を行い、有効に活用することが重要となっています。

雨水排水対策の積極的な推進

- 河川のない本地域にとって雨水排水対策は安全な都市づくりにおける重要な課題の一つとなっています。
- 国営総合農地防災事業は完了していますが、排水施設が未整備の地区もあるためさらなる治水対策の促進を図り、水害に強いまちづくりを推進することが重要となります。

北関東自動車道太田藪塚インターチェンジの活用

- 本地域は、ほぼ全域にわたって特定用途制限地域の指定による工業的土地利用の規制を行っていますが、北関東自動車道のポテンシャルを活かし、新たな産業拠点として工業・流通機能の集積を図るための土地利用の誘導及び規制を検討する必要があります。

② 地域づくりのコンセプト

【地域の将来像】

自然環境と生活空間・都市機能が調和した、やすらぎと新たな交流のあるまち

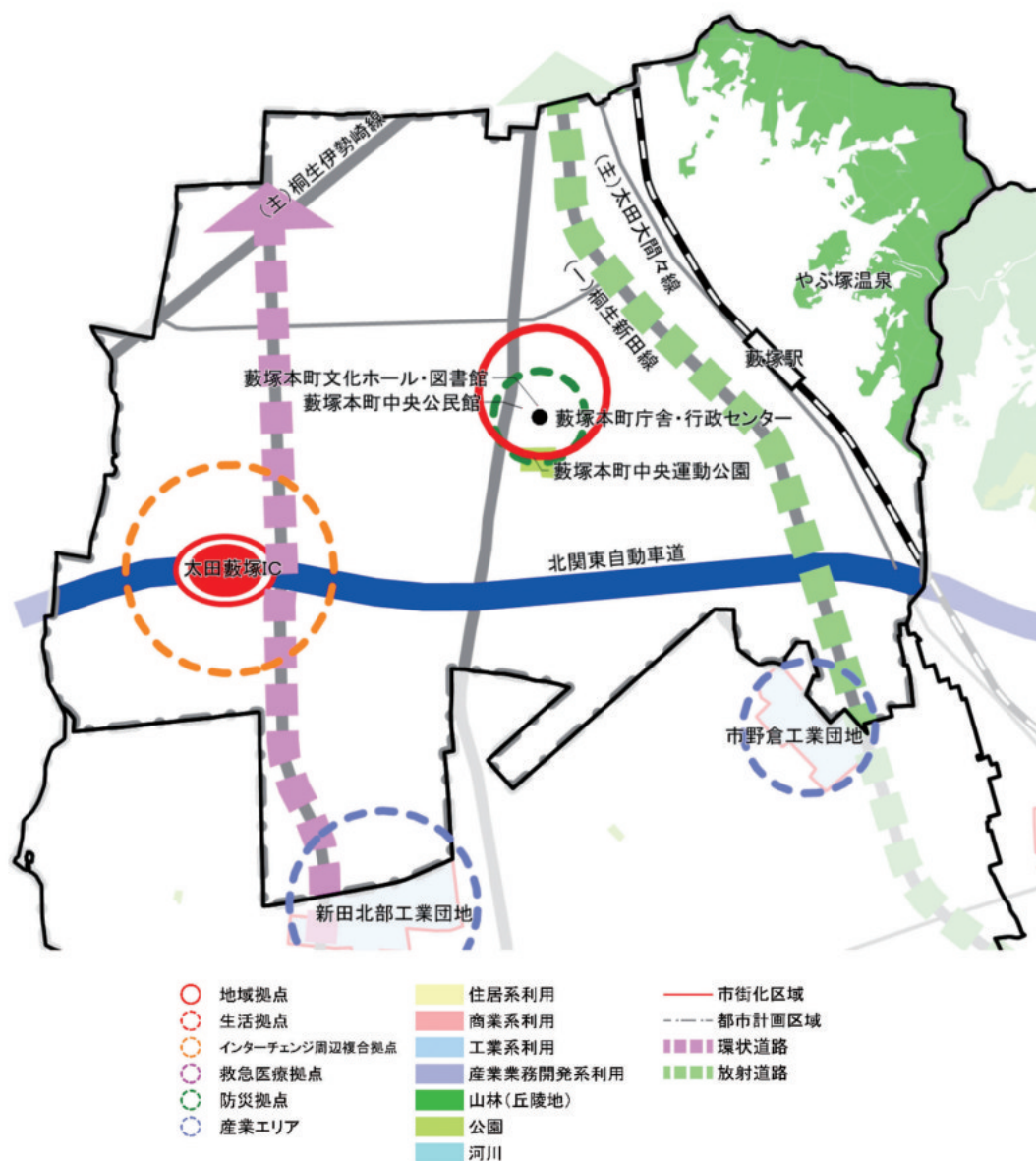
本地域は、良好な自然環境の保全とその環境特性を活かしたやすらぎのある居住地としてふさわしい生活系の土地利用とともに、太田藪塚インターチェンジとその周辺の産業集積、観光資源等を活かした複合拠点の形成を図るゾーンとして、新たな都市構造上の役割を担うことが重要となっています。

こうしたことから、当地域の将来像を「自然環境と生活空間・都市機能が調和した、やすらぎと新たな交流のあるまち」とし、次のまちづくりの目標を定めます。

【地域づくりの目標】

- a. 計画的な土地利用を図り、質の高い快適な住環境のまちづくりを進めます。
- b. 北関東自動車道及びインターチェンジを活用し、新たな産業拠点の創出による地域の活性化を図ります。
- c. やぶ塚温泉の観光資源を活かし、保養機能としての活用を含め広く地域内外の人々が憩い、ふれあうまちづくりを進めます。
- d. 地域の特性を活かし、自然環境や優良農地に配慮した美しいまちづくりを進めます。

図：将来地域構造図



③ 地域の整備方針

【土地利用】

- 本地域は非線引き都市計画区域であり、土地利用における農地・住宅・工場の混在化が大きな課題となっていることから、これを解消しつつ、既存のまちのまとまりを維持するため、現行の特定用途制限地域の見直しや用途地域、地区計画等の導入による段階的な土地利用の規制及び誘導を行うとともに、本市の均衡ある一体的な発展に向けた太田都市計画区域との統合及び区域区分(線引き)の検討を進めていきます。
- 北関東自動車道太田藪塚インターチェンジ周辺については、その交通優位性を活かし(仮称)太田スマートインターチェンジの供用や周辺道路整備状況も勘案し、活力ある産業集積や地域振興に貢献するための土地利用を図ります。

- 地域拠点である藪塚本町庁舎周辺をはじめ、藪塚駅周辺、主要地方道大間々世良田線沿道の住宅が集積する区域などは、公共交通や生活利便施設を拡充させるとともに良好な住環境形成を図り、まちのまとまりを維持します。
- 既存工業団地の配置状況や現況の土地利用及び周辺住環境に配慮し、本地域にも工業集積を図ります。
- 農地については今後の農業の動向を見極めながら、農地以外の土地利用との計画的な調整を図り、乱開発の防止に努めるとともに優良農地の保全、遊休農地の活用、農地の集団化・集約化などを推進し、耕作放棄地の拡大防止及び農作業の効率化を図ります。

図：土地利用方針図



【都市施設整備】

幹線道路の整備

- 都市計画道路については、都市計画決定以降、地域の状況や交通需要が大きく変化してきているため、計画の見直しを行い、これからの時代に相応しい地域の実情にあった道路網の構築を図ります。
- 道路網計画に基づき、それぞれの幹線道路網の役割分担を図るため、体系的かつ計画的な整備を推進します。

公園緑地の整備

- 保全緑地ゾーンに位置づけられる八王子丘陵については、緑地保全の充実強化を図ります。

下水道の整備

- 将来的な土地利用計画を考慮しつつ、公共下水道の計画区域における整備に努めます。

【都市環境整備】

歩行者系道路の整備と公共交通の整備

- 高齢者などの交通弱者でも安全安心かつ快適に移動できるよう、歩きやすい歩行者空間の整備に努めます。
- 公共交通の軸となる藪塚駅の利便性を向上させるため、通勤・通学・買い物などの日常生活の利便性を高めるバス路線の検討など、公共交通網体系の再構築を図ります。

田園環境の保全

- 農地が有する多面的な機能に配慮しながら、優良な農地を中心に田園環境の保全に努めます。また、耕作放棄農地の発生を防止するため、農地の流動化や集団化の促進に努めます。

排水施設整備と河川などの自然環境の保全

- 排水施設整備を行い、安全安心な生活環境の保全に努めます。
- 岡登用水は本地域での唯一の身近な水辺環境として、保全・保護に努めます。

観光地区周辺の環境整備

- 歴史ある「やぶ塚温泉」を活かし、周辺の観光地との回遊性の高い周辺環境の整備を推進し、魅力ある環境整備に努めます。



(やぶ塚温泉)